

平成29年11月27日

大学ポートレート

ステークホルダー・ボードへのヒアリングに対する意見

1. 大学ポートレート全体について

- 大学ポートレートが良いと感じること。
 - ・教育情報の公表・活用を主眼としている。
 - ・情報収集については、私学事業団が行なう学校法人基礎調査（財務・教学）の活用により、各短期大学の負担を軽減する工夫がある。
 - ・民間業者（広告代理店）等、費用負担を要するものとは違い、多くの大学が参加している。

 - 大学ポートレートが不便に感じること。
 - ・最も重要なステークホルダーである短期大学進学希望者とその保護者に対し、必ずしもわかりやすい教育情報の提供とはなっていない。
- 例①大学検索画面（検索条件）では特定の学科正式名称でしか検索できない。
- ②進路・就職状況：就職率等がグラフ化や図形化されていない。卒業生表記も学校全体で、関心のある学科の卒業者と就職者に関する情報が得られない。
 - ③教員数：全て大学全体となっており学科別でない。詳細は外部リンクで閲覧可能。特長ある教員の紹介などがあると受験生が興味を抱く可能性有。
-
- 大学ポートレートに対する印象
 - ・私立短期大学関係者
 - ・高等学校進路指導担当教員（高等学校進路指導研究会）
 - ・高校生、保護者

2. 本学の大学ポートレートの状況について

- 担当者の負担軽減は図られている。
 - ・初回は労力を要したが、その後は更新作業。
 - ・反面、数字以外の文章は前年度踏襲として更新作業が進んでいない。

- 担当者の声
 - ・高校生の関心は「資格取得」「就職率」「先輩の声」が最も多く、そこに魅力的な写真がなければそのままスルーしてしまう。

- ・どの頁も共通様式であることから、アクセントにかける「文章」表記であり、詳しいことは当該大学の HP への誘導から、受験生にとって大学を比べる際に魅力的であるか。
- ・保護者にとって重要な情報である「初年度学納金」などの頁が探しにくい。「学納金情報」、「独自の奨学金情報」等が必要ではないか。
- ・各大学の頁でたとえば「OC 情報」等のタグがあれば、当該大学のオープンキャンパス情報を確認する可能性が増えるのではないか。(大学関係者も頻繁に更新をする可能性有。)
- ・大学関係者が活用するとしても(ベンチマークのために見る)、数値が大学全体の総合数値でしかないため、根拠数値として比較が困難である。

3. 大学ポートレートに対する要望について

○大学ポートレートの内容充実に伴う負担軽減について。

短期大学をはじめとする地方の中小規模の大学・短期大学は、少ない事務職員で運営しており、事務負担を軽減できる仕組みが必要と考える。

○国際発信について

- ・短期大学においては、国際発信に積極的に参加する大学が少ないと思われる。国際発信よりも、国内の学生にとって有用性のある内容が求められる。

○大学ポートレートの広報について

- ・進学希望者に短期大学を知ってもらうためにも、大学ポートレートの広報に力を入れ、利用促進を図る必要があると考える。

例：高校教員の進路指導のツールとして、大学ポートレート活用に関する内容を盛り込む。

4. その他

○一覧機能の充実について

- ・ステークホルダー(学生、保護者、高等学校教員等)が大学を選定する際に参考となりうる項目であり、かつ安易なランキング化に繋がらないよう配慮する。
- ・利用者のニーズと提供者の意識の乖離。

以上

国際学院埼玉短期大学 学長 大野博之